

北太平洋西部で台風から温帯化した
低気圧の解析的研究

S. Brand (NEPRF), P. Guard (JTWC)

1971年北太平洋西部で発生した16個の熱帯低気圧と台風について、温帯化した後の特性について調べた。その多くは、転向後はほぼ5日間も強い破壊力を持ち続けたことが示される。16個のうち6個は、北太平洋を横切ってアリューシャンや北米大陸西岸にまで影響を与えた。

フラックスと静止気象衛星 SMS-1 の IR 輝度値、および、レーダ観測より見積もられた降水量との対応を調べた。背の高い雲による質量フラックスの時間変動は、IR の輝度値と降水量の変動と非常によく対応している。また、解析モデルを使って計算された降水量は、観測された降水量とよい対応を示す。雲による質量フラックス、IR の輝度値、および降水量と周期3.5日、波長2,500kmを持ち西進するアフリカ波動との関係についても調べた。

第20期第10回 常任理事会議事録

日 時 昭和54年7月19日(木) 14.30~18.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 植村, 奥田, 河村, 神山, 関根, 新田, 山下.

報 告

[会計] 6月分会計報告

[天気] 7, 8月号目次報告, 順調に進んでいる.

[気象集誌] 57巻4号目次報告.

[気象研究ノート] 「天気解析」の原稿入手

[奨励金各賞] 昭和54年度化学技術賞受賞候補者の推薦依頼の締切期日が切迫しているため、理事長推薦があったらお願いしたい。奨励金について、会田勝氏から川崎市の気象研究会代表者であるキャノンの山口氏を推薦したいとのことであるが、グループで研究費がとれる場合はそちらの方でやってもらいたい。

議 題

1. 山本賞の賞牌について 希望条件について、理事長から山本義一先生に伺ったところ、お任せしたいとのことなので、事務局で作成した図案を検討した。その結果を山本先生に送り、ご意向を聞くことになった。
2. 広告取扱業者科学技術社との契約更新について さきの常任理事会で、「天気」編集委員会から「天気」の表紙裏(表2)を「天気」の投稿規定またはコンテンツ、賛助会員に使用したいと申入れがあったが、科学技術社では、9月号まで広告が決まっているとのことなので契約更新がのびのびになっていた。7月16日に、科学技術社、三報社と異「天気」編集委員、辻会計委員等が学会事務局で打合わせをした結果、(1)表紙裏(表2)は広告主にとっては価値ある頁

で希望する業社はいくらでもある。(2)学会にとっては、大きな減収となることは間違いない。(3)用紙、印刷費等が値上がりするので、広告代も来年は改定せざるを得ない。(4)広告主から紙質が悪いため広告が見づらいという点については、従来の活版刷りでなしに、オフセットにすることにより解消できる。(5)表紙裏(表2)は、解放せよとの強い要望であれば科学技術社としてそれに従わざるを得ない。ということであった。「天気」編集委員会がこの件につきもう一度検討する。

3. 学会賞、藤原賞、山本賞の各委員の委嘱について 学会賞は毎年9月、藤原賞は毎年8月、委員を会員の中より理事長がこれを委嘱すると規定されているので、担当理事の沢田竜吉氏に意向を聞いた上で委嘱することになった。また、山本賞は、毎年8月「天気」および「気象集誌」の編集委員の中よりこれを委嘱すると規定しており、両編集委員長から次のとおり推薦があり、理事長から委嘱することに決定した。

山本賞候補者推薦委員会 委員：内田英治、山下洋、花房龍男、嘉納宗清、木村竜治(以上「天気」編集委員)、浅井富雄、新田 尚、近藤純正、斎藤直輔、小野 晃、瓜生道也(以上「気象集誌」編集委員)。なお、委員長には、浅井富雄氏が推薦された。

4. その他

(1) 秋季大会を福岡管区気象研究会と共催することについて さしつかえない旨回答すると共に支部長竹内清秀氏を大会委員長に委嘱することを了承した。

(2) 気象普及書の刊行について 教育と普及委員会で検討された計画(案)について河村理事から説明があった。内容は平易で読み易いものにする。A5版300頁以内、定価は2,500円以下にしたい。発行は日本気象学会、発売は朝倉書店とする。原稿〆切は10月末日、刊行は昭和55年3月末予定、これに対し、他の著者(一般会員)との関連、気象学会の名前を使うことの問題等があり、結論は次回ということになった。

(3) 台風業務実験準備会議の開催について 新田理事から、気象庁が計画している台風業務実験(TOPEX)についての報告があった。詳しくは同理事が「会員の広場」(「天気」9月号の予定)に投稿した説明によることとし、その概要は、台風委員会の下でWMOの熱帯低気圧計画のサブプロジェクトとして、気象、水文、警報伝達・情報交換の3部門に

ついて各国の業務の改善をめざした業務実験を行なうというものである。1981年予備実験、82および83年本実験をそれぞれ実施するが、参加国が共通の資料と手順で台風業務の近代的な体制を試行し、経験を交換しその結果を評価して業務改善に役立てようというのがねらいである。

(4) 気候変動シンポジウムを「気象研究ノート」で取り上げることについて 8月24日に行なわれる気候変動シンポジウムの講演者が「気象研究ノート」に執筆するか否かは、はっきりしていない。したがって、講演者に執筆依頼をして承諾されたら編集することを確認した。

(5) 100周年記念事業について 担当理事からその後の経過が報告され、意見を交換した。

承認事項 東 学ほか9名の新入会員を承認。